

## 地域において緩和ケアを提供するための論点(たたき台)

## 課題

## 対応の方向性

- 地域の中でのネットワーク構築(同職種間、多職種間)が充分ではない。
- 地域社会でがん患者を支える体制を構築する上で、それぞれの地域の特性に応じた体制作りが充分ではない。

地域包括ケアシステムの概念を踏まえつつ、入院医療機関が診療所等と連携し、患者とその家族の意向に応じた切れ目のない地域完結型の在宅医療の提供体制を構築するための方策についてどのように考えるか。

- 地域で生じる緩和ケアに関する問題について、専門家に気軽に相談できるネットワーク構築やその可視化が充分ではない。
- 緊急対応等、在宅緩和ケアのバックアップ体制が充分ではない。

拠点病院や緩和ケア病棟の医療従事者が、在宅医療従事者と情報の共有・統合を行い、緊急時の受け入れ体制を整備するための方策についてどのように考えるか。

- 地域拠点(事務局・コーディネーター)機能が充分ではない。

既存の地域リソースを最大限利用するため、拠点病院や診療所等の関係施設間の調整を行う機能をそれぞれの地域の特性に応じて確保する方策についてどのように考えるか。

- 終末期がん患者に適切に対応するためには、在宅関連の医療・福祉従事者のがん診療に関する知識や経験が充分ではない。

在宅緩和ケアを担う医療・福祉従事者向けの在宅緩和ケアに関する研修等を拠点病院や診療所等が連携して実施することについてどのように考えるか。